

吃音「症状」と相互行為実践

公開シンポジウム「ことば・認知・インタラクション11」

2023年3月4日

高木智世（筑波大学）

澤井雪乃（フリンダース大学）

本日のアジェンダ

1. 吃音の「症状」について
 - i. 「中核症状」
 - ii. 「非中核症状」
2. データについて
3. 本発表において対象とする事例
4. 非吃音者の自己修復との関連
5. 「それ」の再試行の機会を生み出す工夫としての自己修復の過程
6. 行為の構築に際して利用可能な汎用的資源や手続き
 - フィラー的表現の利用
 - **telling**において、描写をより精緻化する
 - スタンスの表明
 - 行為の「分割」・再配列
 - 視線の利用
7. まとめと考察

1. 吃音の「症状」について

i. 「中核症状」

- 音・語の一部の繰り返し（「連発」）
- 音の引き伸ばし
- 発話の阻止（「難発」）

(1) [名前_5:35]

K: そやね na- na- なんか s- s- s- 3人でなんか (0.6) なに? なんか (0.6)
パンケ (h)ーキ (h) で (h) も (h) ta- ta- ta- ta- た:::べたいね=

1. 吃音の「症状」について

ii. 「非中核症状」(森、2018)

- 単語や文節の繰り返し
- 発話の工夫：力を入れる、間投詞等の挿入、単語の順序を変える、直前の単語や句を繰り返す etc.
- 発話の回避：苦手な音で始まる単語等を回避→言い換え・迂言、発話機会そのものを回避
- 随伴運動：顔面に力を入れる、手足や身体を動かす、視線を逸らす etc.
- 情緒性反応: 羞恥・不安・恐怖・パニック・自責 etc.

2. データについて

澤井(2020)において収集されたデータ

- 2019年5月から2020年3月にかけて収集。
- 吃音者6名と非吃音者4名の計10名に調査協力を依頼し、吃音者が1名以上含まれる日常会話を収録。収録した会話データは合計7件（電話会話5件、対面会話2件）、計190分程度。
- 本発表の対象となる現象については、現時点で20件の事例を収集・分析中。
- 非吃音者が含まれる会話においては、非吃音者は相手に吃音があることを知っており、また吃音者も自身の吃音を相手にオープンにしている関係である。吃音者同士の会話も同じく、お互い相手に吃音があることを知っている。（参加者は友人関係・親子関係にある。）

3. 本発表において対象とする事例

- 吃音の診断を受けた参加者による日常的相互行為場面における発話
 - ある語句の産出を中断し、他の語句・表現を産出したのちに再びその語句の産出を試み、かつ、（最終的に）達成する事例を対象とする。
- 吃音の発現による発話産出の中断→やり直しであることが特定しやすい。
- 発話者自身が「やり直している」という点において、また、最終的に発話を完結しているという点において、発話における秩序を回復するための秩序だった手続きである「修復の組織」における自己開始自己修復 (Schegloff et al., 1977) として捉えることが可能。

(2) [女子会_13:23]

Y: 私ねさきさんねフェイスブック申請ki-ki-この最近 ki- ki- ki- きた::

the repair
「目標語」 (澤井, 2020)

the repairable

repair operation
(e.g. “inserting”; Schegloff, 2013)

4. 非吃音者の自己修復との関連

Sus: Pa- may >I have a < c- c'n I have the gravy Ross?



(Drew, Walker & Ogden, 2013; 91)

- 自己修復の過程を詳細に観察することによって、発話者（行為産出者）が行為を産出する上でどのようなことに志向し、今この状況においてどのような行為フォーマットを適切・不適切と捉えているかということがわかる。
- 行為は、連鎖上の位置や相互行為環境に敏感な仕方で構築される。
(Drew et al. 2013)

4. 非吃音者の自己修復との関連

- 本発表で扱う事例は、今ここの状況において、ある行為形式Xよりも別の行為形式Yのほうが適切であるという規範性への発話者の志向というよりも、吃音症状の発現（=発話産出上のトラブル）を契機とした自己修復
- 「より適切な別の言い方」の選択肢があるわけではない。ほとんどが、言い換えが困難な事例

[女子会]データ：K、Y、Bともに吃音がある。この会話は、3月下旬にKの自宅で収録された。Kは、結婚して前年の夏に出産しており、乳児のケアをしながら会話に参加。

(2) [女子会_13:23]

Y: 私ねさきさんねフェイスブック申請 **ki-ki-**この最近

ki- ki- ki- **きた::**

意味的・文法的に限
定される

the repair
「目標語」 (澤井, 2020)

the repairable

→ **文法的・意味的・語法的に生起可能な語句が制限されている**

「より適切な別の言い方」の選択肢があるわけではない。ほとんどが、言い換えが困難な事例

(2) [女子会_03:12]

01 Y: ほんと. 私もちっさい頃さ:::(0.3)なんか(0.5)なんていう

02 の?(.)結婚したときにさ::::[::

03 B: [う:::ん.

04→Y: なんかchi-chi:::あのう教会でこうchi-(.)¥ちか[いますっていう:::¥(0.4)

05 K: [hhhahahahahahaha

06 Y: [¥い-言えなさそう¥(0.4)[で言え-言えなく[て-言え::ないだろうって=

07 K: [.hhh .hhh .hhh [いやもう [¥う::ん¥.

08 Y: =思って心配した.

特定の場面と結びつ
いた定型句

→語りにおける引用・再生・実演・定型句など

「より適切な別の言い方」の選択肢があるわけではない。ほとんどが、言い換えが困難な事例

(3) [名前_14:28]

((電話会話. BとKはともに吃音者. この会話の直前では, Kが自身の子どもの名前の由来を説明していた.))

01 B: しょうっていう字さ:: (1.0) [あの:: (.) え-えっと:: 右っ ka-ka-ka-ka-ka-かわが=

02 K: [うん

03 B: = えっと:: (0.8) °ha-ha-ha-ha-ha-ha° 羽っていう字やんな

04 (1.8)

05 K: みぎ-あそうそうそう:: それぞれ

06 (0.5)

07→ B: [あっあの::: °ka-ka-ka-ka-ka あれ ka-ka-ka-° [[**彼氏**と::: ((“o- o- o- o- o- o-”))

08 K: [(咳)) [[うん

09→ B: ¥同じ名前やねん¥

10 (1.0)

11 K: え[そうなん?]

12 B: [しょう-

13 B: =[[あそうあの::: .hhhh ええとさん::: (0.4) か月前にできたんです彼氏[huhuh

14 K: [[hahahuhu [えっ?

「恋人ができた」事実を「さりげなく」アナウンスメントに埋め込むための表現 & non-recognitionalな指示表現として最適（「恋人」「今付き合っている人」などよりも無標的な表現）

→その行為の達成に最適な表現

- 「それ(目標語)」が「今ここ」において最適な形式であるという発話者の「こだわり」が明示的に標示されている場合もある。

(4)[女子会_46:50]((Bは障害者雇用制度を利用して就職し、春からある会社で働き始める。前の部分では、Bが、自身の障害について会社で配慮してもらった内容を説明し、そのような障害者を雇用することによって会社に補助金が出ていることや障害者の雇用がその会社の「宣伝」になることを述べている。KにはBの就職の経緯を知らせていなかったため、ここでは主にKに向けて語っている。))

01 B: やっぱり- こういう人-(0.3) [達も:]
 02 K: [((咳払い))]
 03 B: 採用して [こう
 04 Y: [°うん°
 05 K: う:::ん.
 06→B: tah- ん- なんていうの こう-
 07 (0.9)
 08→B: う:::ん,
 10 (1.5) ((Bの吸気音))
 11→B: **ダイバーシティ** **というか** (1.6) **多様性?**
 12 Y: う:::ん.
 13 B: **の** **ある**::: (0.7) 職場です **よ**とか=
 14 K: =う:::ん

- 修復の前置き (repair preface; Lerner and Kitinger, 2015) 「というか」の使用→「ダイバーシティ」より「多様性」の方が今ここで達成しようとしていることにおいてより適切である。(Hayashi, Hosoda & Morimoto, 2019)
 - 「多様性のある」という定型的表現
 - 「会社」を Principal/Author (Goffman, 1981) とするメッセージの引用として提示
 - Recipient design?
- 試行標識 (Sacks & Schegloff, 1979)の使用→進行性の滞りを最小化しつつ、何らかの(認知的)不確かさを含む表現(串田, 2008)という扱いをすることによって、その不確かさゆえの非流暢性として構成。(=別の相互行為課題の導入?) また、試行標識を用いて受け手の反応を引き出すことによって、その不確かさを相互行為的・公然的に解消する。

なぜ「言い換えが困難」なのか？

→ **文法的・意味的・語法的に生起可能な語句が制限されている**

→ **引用・再生・実演・定型句など**

→ **その行為の達成に最適な表現**

➤ 「同義語」の欠落や探索失敗というよりは、今ここの相互行為状況において精緻に行為を構築する際の問題

➤ 吃音症状(中核症状)が相互行為状況において生じるのは、(少なくとも部分的には)その状況において最適な形に彫琢された行為の産出が志向されるから？

5. 「それ」の再試行の機会を生み出す工夫としての自己修復の過程

- 今ここで達成しようとしている行為・プロジェクトの中で、「その表現」の産出を再度試みる機会を生み出す工夫としての自己修復の過程
- その機会に至るまでターンをランダムに引き伸ばすのではなく、行為の構築に際して利用可能な資源や手続きが、**今この相互行為実践における行為・意味理解に資する仕方で産出途上の行為・プロジェクトに組み込まれている。**
- **行為の構築のために利用可能な汎用的資源や手続きの「インベントリー」**を垣間見ることができる。

6. 行為の構築のために利用可能な汎用的資源や手続き

- **telling**における描写をより精緻化する
- フィラー的表現の利用=「次に来るもの」の性質を予示
- スタンスの表明
- 行為の「分割」・再配列



ターン構築における progressivity が引き下げられるが、一方で、intersubjectivity は引き上げられる。
(Heritage, 2007)

(5) [女子会_03:12] ((直前では, Kが, 最近吃音症状が強いため娘に絵本を読んであげても内容が伝わるのか心配であるということを述べる.))

01 Y: でも:: (0.5)
 02 B: その不安はけっこ[う
 03 Y: [う::ん,
 04 K: あるよね= ((Bに向けて))
 05 B: =私にはある. ((Yに向けて))
 06 Y: °°う[ん°°
 07 B: [割と.
 08 K: [°うんうん[うんうん°.
 09 Y: [ほんと. 私もちっさい頃さ::: (0.3) なんか (0.5) なんていう
 10 の?(.) 結婚したときにさ::: [:::K
 11 B: [う:::ん.
 12→Y: なんか_Kchi-chi:::Dあのう 教会_Wで こうchi-(.)¥ちか[いますって_Kいう:::B/K (0.4)
 13 K: [hhhhahahahahahaha
 14 Y: [¥い- 言えなさそう¥(0.4) [で言え-言えなく [て- 言え::ないだろうって=
 15 K: [. hhh . hhh . hhh [いやもう [¥う::ん¥.
 16 Y: =思って[心配した.
 17 B: [¥おんなじこと思った¥

Kの語り・Bの同調的受け止めに対するYの反応が期待される位置。→自身の具体的体験の語りを通して同調を示そうとしていることを示す。(より強い同調・理解の提示の仕方)

具体的な場所(場面)の設定

・描写する表現をサーチしていること予示&その描写は言語的に表現することが困難であることを標示 (Kushida & Hayashi, 2022)
 ・なんらかの特定性・具体性を含む描写を試みていることを予示

特定の場面と結びついた定型句

(6)[女子会_46:50]((障害者を雇用することによって、その会社には補助金が出ることを述べた後))

01 B: でしかもそれは宣伝に:_k (0.6) [なんねんその]

02 Y: [う::::::::ん]

03→B: °k- k- k-° [ま (1.2) あんまりいい話では()ないけど、こう

04 K: [う:::ん]

05 (0.8)

06→B: その:会社の (0.4) イメージがあるやん_{kj}

07 K: あ[:::~:]

08 Y: [うん=

09 B: =やっぱり- こういう人- (0.3) [達も:]

10 K: [((咳払い))]

11 B: 採用して [こう

12 Y: [°うん°

13 K: う:::ん.

- 新たなTCUの開始→「仕切り直し」
- 「まあ」の使用→一般的期待から逸脱するような発話を産出する際の問題性の認識を標示 (高木・森田, 2022)

後続の発話内容に対する評価的スタンスの明示的表明

なんらかの特定性・具体性を含む描写を試みようとしていることを予示

- 「その会社のイメージがある」ということについて共通の認識を確立
- その確立を起点としてさらに説明を展開することを予示 (この後に語ることの「準備」の確認であることがわかる組み立て・「こう」によって予示されている内容がまだ十分に産出されていない)

14→B: tah- ん::なんていうの こう-

15 (0.9)

16→B: う:::ん,

17 (1.5) ((Bの吸気音))

18→B: **ダイバーシティ**というか (1.6) **多様性?**

19 Y: う::ん. ((Kは頷く))

20 B: のある:: (0.7) **職場ですよとか** =

21 K: =う:::ん

22 (0.7)

23 Y: [ふ:::ん

24 B: [ていうことで (0.8) > **宣伝にもなるから** ::<
((手を打ち合わせる))

25 K: °° ^ :::: °°

自問発話：適切な表現をサーチしていることを予示 (Endo & Yokomori, 2020)

なんらかの特定性・具体性を含む描写を試みようとしていることを予示

会社を Principal/Authorとする宣伝のメッセージの引用として提示

01行目で開始した「宣伝になる」ことについての説明が完結したことを標示

視線の移動のタイミングについて:「多様性」という表現を受け手が理解できるか不確実というより、自身の表現選択の妥当性としての不確実さ&受け手の承認によって先に進めるような性質の非流暢性として構成

「会社のイメージがある」ということについての共通の認識を確立
→具体的な描写を通して、それが意味することの説明を展開
→「その会社の宣伝になる」という主張について、具体的な説明を協同的に達成

7. まとめと考察

- 吃音の中核・非中核症状と言われる諸現象の一部は、秩序だった仕方で相互行為の中の発話に組み込まれている。
- 吃音症状を契機に開始される自己修復の過程において、産出途中の発話・行為のより精緻な彫琢を可能にする資源が組み込まれ、発話の進行性と間主観性のやりくりをしながら発話・行為の完結に至る。
- 吃音「症状」→相互行為の中で、人はどのように進行性と間主観性という基本的に相反する性質の要請に対処しながら行為を構成・彫琢し、発言順番を達成してるのかがつぶさに観察可能となる場

ご清聴ありがとうございました

参考文献

- Drew, P., Walker, T., & Ogden, R. (2013). Self-repair and action construction. In M. Hayashi, G. Raymond & J. Sidnell eds., *Conversational Repair and Human Understanding*. Cambridge University Press
- Endo, T., & Yokomori, D. (2020). Self-addressed questions as fixed expressions for epistemic stance marking in Japanese conversation. In T. Ono & R. Laury (Eds.), *Fixed expression in interaction: Building language structure and social action*, pp. 203–236. John Benjamins.
- Goffman, E. (1981). Footing. *Forms of Talk*. Pennsylvania: University of Pennsylvania Press, 124-159.
- Harvey, S. and Schegloff, E. A. (1979). Two preferences in the organization of reference to persons in conversation and their interaction", In In Psathas, G. (Ed.) *Everyday Language: Studies in Ethnomethodology*. pp. 15–21. Irvington.
- Heritage, J. (2007). Intersubjectivity and progressivity in person (and place) reference. In T. Stivers & N. Enfield (Eds.) *Person Reference in Interaction: Linguistic, Cultural and Social Perspectives*, pp. 255–280. Cambridge University Press.
- Hayashi, M., Hosoda, Y. & Morimoto, I. (2019). *Tte Yuu Ka* as a Repair Preface in Japanese, *Research on Language and Social Interaction*, 52(2), 104-123.
- 串田秀也. (2008). 指示者が開始する認識探索：認識と進行性のやりくり. *社会言語科学*10(2), 96-108.
- Kushida, S., & Hayashi, M. (2022). Indicating difficulty in describing something in words: the use of *koo* in word searches in Japanese talk-in-interaction. *Research on Language and Social Interaction*, 55(1), 59-78.
- Lerner, G. H., & Kitzinger, C. (2015). Or-prefacing in the organization of self-initiated repair. *Research on Language and Social Interaction*, 48(1), 58–78.
- 森 浩一 (2018). 小児発達性吃音の病態研究と介入の最近の進歩. *小児保健研究* 77(1). 2-9.
- 澤井雪乃 (2020) 「相互行為における吃音症状 —吃音に対処する実践に注目して—」 筑波大学人文社会科学研究科, 修士論文.
- Schegloff, E. A., Jefferson, G., & Sacks, H. (1977). The preference for self-correction in the organization of repair in conversation. *Language*, 53(2), 361–382.
- 高木智世・森田笑. (2022). 問題性への志向を示すメタ相互行為的スタンス標識としての「まあ」. *社会言語科学* 24 (2), 67-82,